先端科学技術研究科　修士論文要旨

所属研究室 （主指導教員）	サイバネティクス・リアリティ工学 （清川　清　（教授））		
学籍番号	2311106	提出日	令和 7年 1月 20日
学生氏名	木村　江梨花		
論文題目	準備プロトコルを用いた身体化感覚の向上とプロテウス効果に与える影響の調査		

要旨

バーチャルリアリティでは，身体化感覚と呼ばれるユーザがアバタを自分の身体として受け入れる感覚や，プロテウス効果と呼ばれるアバタ起こす行動変容が重要である．
身体化感覚は，アバタとユーザの特徴が近しいほど感じやすいが，必ずしも自分に近しいアバタの使用ができるとは限らない．
よって，自身と異なる特徴のアバタを使用しながら身体化感覚やプロテウス効果を高める方法の検討が求められている．
この問題に対応する方法として，触覚提示や視覚情報の表現などが提案されている．
これらは視覚，触覚，固有受容感覚などから感覚を誘発するボトムアップの提案手法である．
しかし，自身と異なる特徴のアバタを受け入れにくい根本的な原因は，外見や性格，ユーザの期待といった個々の要因である．
個々の要因から感覚を誘発するトップダウンの提案手法が提案されていない．
本研究では，アバタに関する説明，想像，演技を行い，アバタへの共感を高めることでアバタを受け入れを容易にし，身体化感覚やプロテウス効果の向上を試みた．
説明，想像，演技とする手法を準備プロトコルと定義し，身体化感覚やプロテウス効果への影響を検証した．
結果，準備プロトコルは身体化感覚に影響を及ぼさなかったが部分的にプロテウス効果に影響が見られた．
準備プロトコルを受ける前からアバタに対して親しみを持つ被験者においてプロテウス効果に正の影響を及ぼした．
この結果を踏まえて，新たに準備プロトコルを用いたプロテウス効果の操作に関する実験を行った．
ステレオタイプと呼ばれるアバタに対して多くの人が抱く先入観に従った内容の準備プロトコルとステレオタイプに反する内容の準備プロトコルを用いることで，プロテウス効果の強化と軽減を試みた．
結果，どちらの準備プロトコルも身体化感覚とプロテウス効果に影響を及ぼさなかった．